

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年7月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0872100896		
法人名	社会福祉法人 克仁会		
事業所名	グループホーム 恵苑		
所在地	茨城県ひたちなか市鳥ヶ台11836-1 (電話) 029-264-3800		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成21年3月11日	評価確定日	平成21年7月9日

【情報提供票より】 (平成21年2月13日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年9月5日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 11人 非常勤 2人, 常勤換算 4.3人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1階建ての 1 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要(平成21年2月13日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	9 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.8 歳	最低 75 歳	最高 100 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	恵愛小林クリニック かむかむ歯科医院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「安心のある場所でありたい。人と人、心と心のつながりを忘れない」との理念の基、管理者と職員はいつも利用者へ言葉をかけながら体調の変化を把握し、きめ細かな支援をしている。  
利用者は「いつも自分をみてくれている人がいる」との思いから落ち着いて穏やかな生活をしている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>利用者の状態に変化が生じた場合への対応について改善が望まれていたが、介護計画の見直し時に家族等に説明するとともに話し合いをするなどで改善している。 入浴の日時を利用者に確認することで夜間の入浴を希望する利用者にも対応できるよう改善している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者や職員は自己評価や外部評価の意義や目的を理解している。 自己評価で気付いた課題を職員で話し合いサービスの質の向上に活かしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回自治会長や民生委員、家族等の代表、地域包括支援センター職員、施設長、管理者で開催している。 出た意見を会議録にまとめ職員で共有するとともにサービスの質の向上に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族等に年1回ホームに関するアンケートを実施し、意見を汲みあげるとともにサービスの質の向上に活かしている。 苦情等は職員で話し合い対応を検討するとともに記録している。 意見箱は家族等が職員を目を気にすることなく活用できるよう、事務所から少し離れた場所に設置している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会の夏祭りに参加するとともに、ホーム行事等に地域の人々が参加し交流している。 小学生や中学生のボランティアを受け入れている。</p>

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安心のある場所でありたい。人と人、心と心のつながりを忘れない」との理念を掲げ、利用者の支援に努めているが、「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」の地域密着型サービスとして見直すまでには至っていない。	○	地域の人々と交流をしているので職員で話し合い、地域密着型サービスとしての理念に見直すことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は日々理念を復唱し共有するとともに理念の実践に努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の夏まつりに参加するとともに、ホーム行事等に地域の人々が参加し交流している。 小学生や中学生のボランティアを受け入れている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は自己評価や外部評価の意義を理解している。 自己評価は管理者と職員で作成している。 自己評価で気付いた課題を職員で話し合いサービスの質の向上に活かしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回自治会長や民生委員、家族等の代表、地域包括支援センター職員、施設長、管理者で開催している。出た意見を会議録にまとめ職員で共有するとともにサービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市の担当窓口に出向き情報交換をするほか、火災予防の参考ビデオを借りるなど協力を得ている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の生活の様子を職員手作りのホームだより「ひなたぼっこ」で家族等に報告するとともに金銭管理も同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等に年1回ホームに関するアンケートを実施し、意見を汲みあげるとともにサービスの質の向上に活かしている。 苦情等は職員で話し合い対応を検討するとともに記録している。 意見箱は家族等が職員を目を気にすることなくを活用できるよう、事務所から少し離れた場所に設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	複数の介護サービス事業を運営しているため、施設間の職員研修などで利用者と職員は顔馴染みの関係となっており、異動があった場合でも利用者のダメージを最小限に抑えている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は新任研修や段階に応じた研修に計画的に参加している。 外部研修や内部研修を受講するとともに、研修内容は職員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政の指導で同業者同士の研修に参加し情報交換をしている。 県グループホーム連絡協議会に加入するとともに会議などに参加している。 市内のグループホームを見学しサービスの質の向上に活かしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に利用者と家族等に訪問してもらい、十分に話し合うとともに納得のうえ利用を開始している。 利用者が落ち着かない時は職員が常に寄り添うとともに、「家に帰りたい」との要望には施設長が自宅に同行するなど意思を尊重した支援をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者や家族等の話から生活歴の把握に努めるとともに利用者から調理の味付けや裁縫の手ほどきを受けたり、生活の知恵を教えてもらうなど共に支えあう関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は普段から全ユニットの利用者の様子を把握することに努めている。 また、常に意識して利用者に声をかけるよう努めるとともに、夜でも話ができるよう環境づくりをしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は担当職員が利用者や家族等と話し合い、職員でカンファレンスを行うとともに医師の指示を受けチームで作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じて評価し見直している。 利用者の状態に変化が生じた場合はその都度評価し、実態に即した介護計画に見直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族等の要望で行政への手続き等を代行している。 ホームでは家族等に代わってあらゆるケースに対応できるよう柔軟に支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族等が希望するかかりつけ医に受診できる体制になっている。 必要に応じて適切な医療が受けられるよう協力医療機関と連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	恵苑に於ける看取り看護に関する指針やターミナルケアに関するマニュアル、死亡時対応マニュアルを整備し、利用者や家族等、管理者などで話し合っている。 ターミナルケア依頼書や承諾書を整備している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の尊厳を傷つけないよう声かけや対応に十分配慮して支援をしてる。 個人の記録は決められた場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりの生活のペースを大切にしており、部屋でゆっくりしたい利用者には日課のラジオ体操も無理に強要しないようにしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1回「選択食」として2種類から選ぶ食事体制をとるとともに利用者が「両方食べたい」との希望にも応えている。 季節ごとの行事食も利用者には好評で、利用者は職員と楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間は利用者の希望にそって支援するとともに夜間の入浴にも対応している。 入浴を拒む利用者には着替えと清拭をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	絵の得意な利用者は描いた絵がホールに張られることで制作意欲を湧かせている。 利用者は職員と野菜をつくり、採れた野菜はホームの食材になっている。 利用者と職員は「ムベ」を庭のフェンスに這わせて収穫を楽しみにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は日常的にしている。 利用者の希望にそって買い物やドライブなど外出支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は居室や玄関に鍵をかけることの弊害を理解し、日中は施錠していない。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成し定期的に避難訓練を実施するとともに、職員は避難経路を把握している。 夜間の避難訓練も実施しているが地域の人々の協力を得るまでには至っていない。	○	運営推進会議などを活かして地域の人々の協力が得られるよう働きかけることを期待する。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者の食事や水分摂取量を把握しているが、利用者全員を記録するまでには至っていない。	○	利用者の体調の変化を把握するためにも利用者全員の食事や水分摂取量を記録することを期待する。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の一角の和室のスペースで洗濯物たたみや将棋、昼寝をするなど利用者は自分のペースにあわせて自由に利用している。 居室、トイレ、共有スペース等の手すりの色を変え、利用者が安心して生活ができるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた椅子や思い出の人形があったり、家族等の写真を貼るなどで居心地の良い居室づくりをしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。